

第6回松山駅周辺まちづくり審議会 《概要録》

開催日時：平成26年2月16日（日）

午後1時30分～午後4時

場 所：KH 三番町プレイス3階 第1会議室

午後1時30分 開会

《挨拶》

【松本開発・建築担当部長】

松山駅周辺地区では、本市、愛媛県、JR 四国をはじめ、多くの地権者と一体的なまちづくりを進めていかなければならないが、まだ、それぞれが、どのような施設を作っていくのか明らかにされていない中で、本市が車両基地跡地の利用に関する基本構想を取りまとめることは、まちの将来のあり方の方向性を決める重要な意義を持つと考えている。

本年度の審議会は、今回を含めて2回となったが、中間報告をもとに、年度末までに審議会による基本構想を作成して頂ければと考えておりますので、よろしくお願いしたい。

【柏谷会長】

松山駅周辺のまちづくりについては、まだ子供のようなものである。関係者の中でもまちづくりの方向性が明確に決まっている状況ではない。しかし、せっかく生まれた子供だから、少しでも健やかに、少しでも社会のお役に立てるような子供となってもらえるように、皆さまから慈しみの言葉をいただければと思っているので、よろしくお願いしたい。

議題1. 松山駅周辺地区車両基地跡地利用に関する基本構想案のとりまとめについて

【事務局説明】

- ・ 基本構想策定に関する今後の進め方と基本構想案の構成について以下の説明を行う。
- ・ 基本構想構成について、第4、5回審議会で検討した「基本施設構成の考え方」のうち、一部、定量的な内容は、来年度以降、基本構想策定後、基本計画の中で検討する。
- ・ 基本構想の策定フローについて、今年度末に審議会による基本構想案のご報告をいただき、平成26年度には松山市において基本構想案を作成し、パブリックコメント等を行い、基本構想を策定する予定である。

【事務局】

- ・ 基本構想案の取りまとめに向けて、昨年度グループワークの進行役を務めていただいた、中央大学現代社会学部講師で、まち楽房（らぼ）有限会社代表取締役 加藤武志 様に進行役をお願いしたいと考えているが、よろしいか。

【会長】

- ・ 異議もないようなので加藤様に進行役をお願いする。それでは、【議題1. 松山駅周辺地区車両基地跡地利用に関する基本構想案のとりまとめについて】議事を進めてください。

【進行役】

- ・ 今日では論点が4つあるが、2つずつ進める。この構想案で、「いいなと思うところ、上手くまとめているところ」、「こうしたら良くなるところ」を、2人ペアで話して頂きたい。

《基本構想案の構成について、基本機能構成について》

【A委員】

- ・文化交流活動支援としては、車両基地跡地は公的な場所になるが、例えば講演者の本も売れるような場所にすべき。

【B委員】

- ・本だけでなく、ビールを売れるなど飲食も必要である。

【C委員】

- ・基本機能構成について、防災拠点機能は、これからのまちづくりには重要であるが、唐突に出て来ている感があるので、概念図において説明するなどもう少し丁寧にしてほしい。
- ・「市民活動交流機能」のうち、高齢者については、もっとアクティブなイメージがあってもよい。受動的にゆっくりがせてもらうのではなく、自らが働きかけて支える、子育ての助言をする等を含めた関わりを強く出したほうが良い。
- ・同じく「市民活動交流機能」のうち、経済活動支援については、事業経営者や企業主と地域のNPOとのマッチングをいれてはどうか。

【D委員】

- ・「基本的な機能構成」の概念図はわかりやすくよい。ただし、松山駅に向かうプロムナード、港から市駅へのアプローチなど、松山駅がどう見えるべきかについて、もう少し話し合ってもよい。松山駅から発信する形だけではなく、松山駅へという意識も高めた方がよいのではないか。

【E委員】

- ・松山駅周辺で完結するのではなく、他に広げることを考えるべき。駅には目的があって利用する人だけでなく、通過利用の施設に興味のない人も沢山訪れる。駅周辺の機能施設だけで受け止めるのではなく、市内にあるさまざまな機能・施設を紹介したり、結びつける窓口があれば、知らない人にも広げることができる。

【F委員】

- ・基本構想の背景について、上位計画における松山駅周辺地区の位置付け及び方向性が一般の方にはわかりにくいので、もう少し解説を加えてほしい。
- ・いずれの計画も長期的な計画であり、これらと車両基地跡地の開発に係る年次の整合が取れるのか心配である。
- ・基本理念の補足で、車両基地跡地を「活動」「学び」「憩い」「賑わい」「交流」により、「新しい松山の文化活動」を創造・発信する場とあるが、総花的な感じを受ける。これまでの議論では、「学び」については意見が無かったように感じる。
- ・基本機能構成について、「市民活動交流機能」のうち、経済活動支援は商工会でも取組んでいる。住み分けや連携補完してやることについて考える必要がある。

【G委員】

- ・基本構想の構成内容としては理解できるものになっている。本基本構想の特徴は、JR松山駅を中心としていることで、イメージにあっている。
- ・市民主体で働くようするためには、行政の働きかけが非常に重要である。具体的な文章として加えらるともっと力強いものになる。
- ・先ほどのF委員の指摘された上位計画との整合性について、関係する計画の年次を図式化して表示すればわかりやすく説明できると思う。

【H委員】

- ・交通結節点であることから、交通利便性を利用し、社会的弱者を支援するなど、社会的弱者に対する配慮を盛り込んではどうか。

【I 委員】

- ・ 交通結節点であり、広域的な交流の場として、県内市外だけでなく、広島、岡山などからも人を集める場所にする事を考えるべきである。また、ビジネス、福祉に関するモデル地区としていくことも考えられる。
- ・ 概念図については、公共交通機関だけでなく、景観などの配慮も入れ込んでもよい。また、基本構想案の中に2つの概念図があるので統一しても良いと思う。

【会長】

- ・ 広域的な交流拠点であることと文化が一つの重要なキーワードではないか。文化を消費ではなく、経済や芸術をベースにした生産に持っていく必要がある。例えば、文化、芸術、教育などのソフト系の産業をつくっていく、文化によって新しい未来の産業を作ることについての芽だしができるようなことを考えてもよいのではないか。

【B 委員】

- ・ 総花的という指摘はその通り。今後の定量的な検討に向けての条件や重み付けをしてもよいのではないか。

【A 委員】

- ・ 基本理念の補足にあるキーワードのうち、「憩い」について、まちの公園や喫茶店で止まらないものが求められると考える。「憩い」と「賑わい」、「活動」と「交流」をそれぞれ複合した概念にしてもよいと思う。

【E 委員】

- ・ 公共施設では指定管理者が運営することも考えられる。現状、指定管理は実際に活動する市民やNPOと市の間立つことになるが、指定管理のあり方を変え、指定管理者が変わっても市民やNPOの声が継続して反映できる仕組みにできないか。
- ・ 例えば、ゲストハウスのような機能ができると、泊まっている人、集まってくる人、NPO、ボランティアで交流が生まれる。
- ・ 運営自体も新しい仕組みができると良い。

【I 委員】

- ・ 運営について新しい仕組みをしている事例について教えてほしい。

【進行役】

- ・ 施設をつくるときに、関係した市民等が運営ルールそのものを作っている例もある。また、指定管理者として業者が入ってくる場合、発注ルールを市民と一緒に考えている例もある。

【G 委員】

- ・ 盛りこみすぎのところもあるが、議論があって盛り込まれたものと理解しており、出発点としてはこれで良いと思う。強化すべきところも示されている。
- ・ 市民参画は時間がかかることで、簡単に仕上がるものではない。市民から、もっと様々な意見が出て来るときに、我々はそれを拾い上げなければならないと思っており、議論に時間がかかるのは止むを得ない。むしろ、松山市は新しいことを取り入れていると前向きに捉えている。

【H 委員】

- ・ 弱者については、個人的には養護学校が見奈良にあり、非常に遠く、気の毒であり、交通利便の良いところに行けないかと考えている。しかしながら、突き詰めると駅の近くに学校をつくらないといけなくなるので、それは難しいと思っているが、何らかの弱者への支援は必要であろう。
- ・ 計画自体が長くなるのは致し方ないという意見もあるが、もっと早く、スピーディに進めてほしい。JR、県も市と足並みを揃えて進めてほしい。そうなれば、審議会での意見を駅周辺まちづくりにもっと組み込める。

《基本計画・基本設計に向けた配慮事項、その他》

【I 委員】

- ・ デザインの話が重要で、3つの事業体（県、JR 四国、市）の合意で統一することが理想である。既存施設との住み分け役割分担は、松山市が市有施設を管理するためにまとめる「松山市公共施設マネジメント」も関わり難しいが、まずは、3つの事業体でこの地区内で重複する機能をもたない、持つ場合は共有して、より集客できるようになどの配慮が重要である。

【会長】

- ・ 松山駅周辺まちづくりについては、松山市がリードし、大判振る舞いしないと駄目だろう。市は性根を据えて進めてほしい。

【G 委員】

- ・ 他の施設と補完しあう関係がポイントである。松山市が知りえる情報を公表して、松山駅周辺で補完する必要があるものについて検討することが必要である。
- ・ 「市民が愛着を感じられるデザイン」については、市民参画での意見によると、レトロ、城下町がキーワードになるのではないか。
- ・ ユニバーサルデザインについては、ハード面を連想しがちだが、ソフトも含まれる。そこをより強く出しても良いのではないか。

【F 委員】

- ・ 車両基地跡地に施設が整備されるのは10年ぐらい先の話であることから、将来の変化をある程度予測することが必要である。いちばん大きく変わるのは海外マーケット、少子高齢化の部分だろう。IT化とグローバル化への対応を両方考えると、キャリアフリーのwifiへの対応などの取組みも必要になってくると思う。

【E 委員】

- ・ この事業自体が先駆的な試みなので、市民参加については、「市民参加プロセスを共有して」等の具体的な文言を加えると、ソフト面とハード面を兼ね備えたまちづくりの計画をしていることがわかり、市民がもっと期待できると思う。

【D 委員】

- ・ 基本理念において、最も重要なのはホールの事項ではないか。基本理念の補足にあるキーワードの5つ全ての実現は無理で、全てを目指すとはどっち付かずになる可能性がある。「学び」は違うのではないか。ホールとの連携を特化すれば、賑わいも生まれ、松山らしい駅になるのではないか。

【C 委員】

- ・ 3つの事業主体（市、県、JR 四国）の中で、一番先に進んでいるのが市である。市は、数年かけて市民調査等、民意についてまとめた結果をJR 四国、県に強く提案して頂きたい。
- ・ 市民会館が堀之内に再築できないことを考えると、松山駅周辺でホール無しに話しを進めるのはありえない。ホールの検討は必要不可欠であり、残すべきと思う。音響設備が整っている等既存施設では埋め尽くせないレベルの高いホールが欲しいと思う。
- ・ JR 四国、県、市の施設が完成したときに、全体として、新しい松山らしい佇まい、調和がとれたまちができるとうい。

【B 委員】

- ・ 車両基地跡地以外も大事である。どの施設をプランニングするにしても、人を建物内に閉じ込め、外に賑わいを出さないのは駄目というデザインコードを作るべきである。用途制限は難しいが、人が集まるような施設の立地、賑わいを外に染み出す設えという大きな方向性を出すとよい。わざと離れたところに駐車場をつくるというのも街のためになると思う。
- ・ 駅のデザインについては、土木交通的には交通機能が重視され、乗り換え動線を短く、乗換え時

間を短くという固定概念で進められる傾向が強いが、そうではない。魅力的な動線が長くあったほうがよいし、賑わいという点では正しいことである。交通系に携わる人は考え難いので、理念やプランニングレベルで、審議会等でしっかり言ったほうがよい。

【A委員】

- ・ 駅舎デザインについて、愛媛大学の学生祭に訪れた人から、松山駅は近代的で、道後温泉に近くにつれ、レトロな建物が増えれば面白いという提案があった。レトロか近代的かではなく、街のストーリーで考えてもよいのではないか。
- ・ 駅周辺だけでなく、駅から他の街につながる場所、大手町通等についても、今後、デザインをしてもらえるように書き込んでほしい。
- ・ 今後の課題について、今想定している施設利用者が今後変わってくることも考え、補修期間が終わったときに、ある程度の可変ができるようにすると書き込んでほしい。

【進行役】

- ・ 先ほどホールのお話がありましたので、ホールについてのご意見を伺って終わりとする。

【I委員】

- ・ 市民会館は堀之内では建替えられない事実を明確にすることは重要である。補完するものが無い、イコール、新しいものがあるという図式になる。現位置での建替えが理想的だが、規制があり難しいという前提条件をもとに、ホール機能を他に持っていく。それを駅周辺拠点に賑わいのある場をつくるというストーリーでよい。

【H委員】

- ・ 新しいホールについては、コミセンと補完し合えることが大前提である。

【G委員】

- ・ 市民が参加しやすい規模、それを具体的にすることがポイントと思っている。

【F委員】

- ・ 市民会館が無くなるのであれば、コミセンと県民文化会館の規模の中間ぐらい、今の市民会館の規模のものは必要ではないかと思う。

【E委員】

- ・ 実際に市内に200人や300人規模のホールがない。交流やアートの促進には、現在無い小規模のホールを市民参画のもと作って頂きたい。

【D委員】

- ・ 松山らしい市民会館が老朽化して使えないので、新しいところに同等のものを作るというストーリーはよい。ホールだけで終わるのではなく、賑わいがあり、お酒が飲め、地域のもものが売られていて、食べられるなど、色々なことをつなげる施設になれば素晴らしい。

【B委員】

- ・ ホールの中だけでなく周辺との繋がりが重要である。駅の改札ぐらいまでつながって、賑わいを外に創出していくことが重要である。

【A委員】

- ・ アクセスが良いところに、非日常でわくわくするホールが出来るのはよいこと。市民会館が現位置からそう遠くないところに整備され、非日常を日常にできる規模のものもできるのであれば、さらに良い。

【会長】

- ・ ホールについては、具体的には別途検討されることになると思うが、貸しホールだけで考えていくのか。松山の新しい文化を育成することを重視するのであれば、相当な人件費、運営費が必要になる。文化活動を新たに生み出す拠点が重要だと思うが、相当な人件費がかかることを覚悟していかないといけないと思う。

【進行役】

- ・まとめれば、ホールについては、あるべきだというのが全員の意見と思う。ただし、市民参画しやすい、新しい文化を発信する、運営の事業費も含めて考える必要がある等、今後、色々なことを検討していく必要があるということかと思う。
- ・非常に良い意見を頂いたので、事務局でまとめていただき、次回はそれをもとにまたブラッシュアップしていけばと思う。

【会長】

- ・具体的なお意見を沢山頂き、ありがとうございます。事務局には、今回皆様からいただいたご意見等をもとに、基本構想案を修正していただき、次回もう一度、その修正案をもとに、審議会として、基本構想案の最終とりまとめをしたいと思う。

議題2. その他

【事務局説明】

- ・今年度実施した以下の3つの市民参画の結果を報告する。
- ・1点目、「わたしの夢みるたのしい駅」という題材でまちづくり作画コンクールを行った。未来を背負った小中学生にも、関心を持っていただくため実施し、来年度も行う予定である。作画に対するコメントも頂き、これからのまちづくりに活かしていきたい。
- ・2点目、愛媛大学の学生祭にブース出展をした。シールアンケートについては、912人の方に貼っていただき、まちづくりアンケートは、146人の方から回答をいただいた。他にトークイベントも行い、29名に参加いただいた。
- ・3点目、毎年行っている松山駅周辺まちづくりシンポジウムであるが、今回はまちづくりには多様な意見を聴く必要があり、特に女性の視点は重要であることから、基調講演者及びパネリストは女性を中心に行った。参加者は、150名であった。会場でいただいたアンケート結果はホームページで公表させていただく。

午後4時 閉会